

道博協ニュース

第22号

発行所 北海道博物館協会
事務局 札幌市白石区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-(898)-0456

第二十七回北海道博物館大会

七月十二日、十三日、函館市で開催

昭和62年12月22日に札幌市青少年科学館で開かれた昭和62年度第3回役員会で、昭和63年度の北海道博物館大会と道博協総会の開催要領の骨子が決まりました。

フブ神父「博物館の近代化と国際交流」

⑤シンポジウム「博物館の国際交流をどうすすめるか」

⑥学芸職員部会

⑦懇親会

第二日（7月13日）

施設・史跡見学（予定）

トラピスチヌ修道院・五稜郭（市立函館博物館五稜郭分館）・五稜郭タワー

一史蹟館・道立函館美術館

館・北洋資料館・市立函館博物館・青函博覧会など

主催 北海道博物館協会
函館市教育委員会
日博協北海道支部
後援 北海道教育委員会
函館市・日博協
会期 昭和63年7月12日
（火）・13日（水）
会場 函館市湯川町「啄木亭」

テーマ 国際交流と博物館
日程 第一日（7月12日）
①開会式（9・30）

②道博協総会

③特別報告（日博協専務理事・毛利正夫氏「日本における博物館の現況と課題」）

④講演（グロッド・フィリ

⑤）

○円とする。青函博見学者は、事前に希望を募り、前売券（割引）を準備する。

大会テーマ「国際交流と博物館」の設定について

幕末以来、北海道は欧米を中心とする諸外国の文化を積極的に導入することにより発展してきました。また、地理的にも北方圏とアジア・太平洋地域を結ぶ日本の玄関にあり、貿易、航海上の拠点として、歴史的に重要な役割を果たして参りました。

治、経済、文化などすべての分野での国際交流が活発に行われている。それらの交流を進める過程で、もっとも基本的なことは、いうまでもなく、それぞれの国や民族の歴史、文化、あるいはそれぞれをとりまく自然環境を正しく理解することである。これはまさに、博物館のみが果たせる極めて大きな役割りなのである（同報告書九頁）。

63年度にスタートする新長期総合計画の中で、経済・社会・文化・技術・情報など広い分野にわたり、積極的に国際交流事業を促進しようとしています。

このような状況をふまえ、昭和63年度の大会では、道内博物館園の国際交流の現状と問題点を理解し、今後の博物館園の活動に生かすために、表記のテーマを設定することにしました。

道博協でも国際化社会における博物館の果たすべき役割を重視し、「北海道における博物館の現状と今後の課題」（昭和62年3月刊）の中で次のように述べています。

過日の役員会では、このテーマでは、かかわりの少ない小規模館が多いのではないかとする時期尚早論も出されましたが、今後、各地の小規模館にとっても重要な問題となるだろうということで、決定しました。ただし、シンポジウムについては、多くの参加

者が関心をもてるような方法で進めるよう努めることになりました。

事務局では、シンポジウムの成果を高めるために、あらかじめ、「道内博物館の国際交流の現状」についてアンケート調査を実施することになりました。次の調査項目を予定しております。団体会員の御協力をお願いいたします。

- ① 出版物等の交換
- ② 実物資料の交換
- ③ 外国人用パンフレット・ガイドブック等の刊行
- ④ 外国文による展示解説・展示資料名の外国語表記
- ⑤ 常設展示場における外国資料の展示
- ⑥ 館園での海外資料の特別展示会
- ⑦ 海外での館資料の特別展示会
- ⑧ 外国人を講師とする講演会・講習会
- ⑨ 館園職員の交流（海外館への派遣・視察、海外研究者の長期受入れ等）
- ⑩ 海外の研究者との共同調査・研究

⑪ 海外の博物館との姉妹提携

⑫ 海外姉妹提携州市町の博物館との交流

⑬ 外国人来館者の状況

網走管内博物館連絡協議会活動をふりかえって

昭和56年全道博物館大会（網走会場）で網走管内のネットワーク化の必要性が提案され、さらに59年の釧路での全道博物館大会において再び管内博物館の組織化と職員研修体制の必要性がさげられた。

そうしたことから、昭和60年管内社会教育課長会議で、経過説明と検討委員を各ブロック（4ブロック）より2名委員が選出され、ようやく組織化に向けスタートをきったわけです。

（室）や記念館などの施設が26市町村に32施設あり、道内他管内に比べ最も多いため、教育機関としての活動の展開に多くの課題が残されている現状にあるため、施設間の情報交流、研修活動及び展示活動の充実が急務であることを説き、協議会の設立が認められ、昭和63年3月3日、16市町22の施設が加盟し結成の運びとなったわけです。

本協議会の主な事業は、先にも書きましたように情報交換、資料の貸借及び斡旋、博物館資料の調査研究、研修会、展覧会、企画展等の実施及び後援を主な活動内容とし、まず加盟館の実態把握というところで、博物館等の事業計画を調査したところ、事務局が想像していた以上に住民向けに色々な事業企画がされていることがわかったところです。

またこの協議会に加盟している3市町中ネットワークのこの組織を通じて人間関係がより広がりを見せ、徐々に目的が前進しているように思っています。

しかし、十分な分析はしておりませんが、各市町村とも社会教育施設が充実され、色々な事業がもたれるようになってきているため、施設間の連携が非常に大切になってきているのが現状です。

そうした中で、62年度は生涯教育の観点にたつて、その担い手として博物館の果たす役割と、ともすると博物館はPR不足だと言われる中で、開拓記念館の関先生を初め各先生方より博物館の事業等の在り方について研修会を開催し、有意義なお話しやデスカッションを行ったところです。

当協議会もスタートしたばかりで、暗中模索であります。が、どこの博物館も多数の入館者を期待して企画の構想を練り、展示の効果を挙げようと努力していますが、現実としては、生涯教育の場としての認識はまだ普及されていない。

そのためにも、少しでも多くの方々に理解してもらおうことを願い、この協議会が役立つことを願ひながら活動の輪を広げていきたいと思っておりますのでご指導方よろしくお願ひ申し上げます。（事務局）

◆道博協第三回役員会報告

昭和62年度第三回役員会は去る12月22日、札幌市青少年科学館で開催されました。

事務局から会務の一般報告・事業報告・会計報告がなされ、渡邊会長と沢副会長から第35回全国博大会の報告と会員の協力に対する謝辞が述べられたあと、野村学芸職員部長から小樽市で開催された研修会の報告がなされました。

協議は昭和63年度の北海道博物館大会の開催要領と予算を中心にするため、前記のような骨子がまとまりました。

このほか、北欧博物館見学ツアー、松浦武四郎没後百年記念事業、日博協職員研修会、アイヌ文化セミナーについて関係機関・団体から協力（後援・共催等）が要望されている旨の報告があり、道博協も協力することになりました。

日ソ極東・北海道博物館
交流協会の活動

北海道とソ連極東地区を結ぶ博物館の交流が、ここ二、三年の間に俄かに活発になってきた。

これは北海道日ソ親善協会が過去長年にわたる地道な努力で交流の糸口をつかんだ「日ソ極東・北海道友好交流会議」の開催を成功させたことが発端となって、博物館活動を含む文化交流が積極的にすすめられるようになってきたことによる。

友好交流会議とは「わが国、とくに北海道に隣接するソ連との善隣、友好関係を築きあげることは、極東地域をはじめアジア全体の平和に寄与する」という主旨にもとづき、平和、友好、文化、経済、漁業などの分野で交流提携を行うことを話し合っ集り、一九八四年夏、ハバロフスク市を会場に初会議が開かれた。

会議に参加した代表団は国会議員（自民、社会各党）道会議議員、自治体首長、労働

団体役員、経済人、漁業代表など幅広い層の代表で構成された。

この他に例をみないソ連極東と北海道の地域間の交流は、つづく第二回の交流会議開催を促し、翌一九八五年六月に札幌市で開かれることになった。両国合わせて二百人以上の代表が参加し、友好と経済発展に関する諸問題が話し合われたが、新たにいくつかの課題が提案され、その一つに今後の文化学术交流のなかに、北海道の博物館とソ連極東地域の博物館の交流をすすめることが加えられ、日ソ双方の合意がなされた。

その後、博物館交流準備のため相互に代表をおくり、交流の基本について、つぎのような内容の同意書が交わされた。

(1) ソ連極東部のハバロフスク、イルクーツク、サハリン諸州の博物館との資料情報の交換、出版物の交換

(2) 資料の交換（実物資料、資料データ、記録写真等）

(3) 博物館職員の相互交流

(4) 共同調査（調査研究の方法）の研究

(5) 展示会の相互開催
こうした博物館交流の諸事業を仲立ちする母体として、日ソ極東・北海道博物館交流協会（高倉新一郎会長）が設立され、直ちに具体的な事業が実施に移された。

まず、人的交流ではソ連文化省博物館局、ロシア共和国博物館局、極東地方博物館などの責任者の来道にはじまり、多くの関係者の往来と交流が活発になってきたことである。また展示会の交換事業についても、アイヌ民族博物館の主催でサハリンアイヌを中心とするソビエト連邦極東少数民族展が一九八七年七月と八月にわたり公開され、展示会交流事業に先鞭をつけたことは真に意義深い。

さらに、アイヌ民族博物館の展示会の開催中に、資料公開立会いをかねて来道したハバロフスク郷土博物館のタチアナ女史、サハリン郷土博物館のシェーピナ女史による学

術講演会が、同博物館、北方圏センター、道開拓記念館などで開催された。

この他にもソ連科学アカデミー民族学研究所レニングラード支部のスベワコフスキー研究員による講演会を開催するなど、会員はもとより、市民一般に対しても公開された行事を重ねてきている。

また、同年九月初旬に開催された第三回友好交流会議には、さきの会議における合意による博物館交流の代表団をおくり、ハバロフスク市やノボシビルスク市など各地方都市において関係者間の意見交換が行われた。

いまひとつ、第三回会議に付随して実施した事業に『北海道の博物館』と題した紹介写真展の公開がある。これは北方圏センターの全面的な援助と道内各都市の公立博物館、郷土館、私設専門博物館の協力によって、約四十枚の写真パネルを制作し、ハバロフスク郷土博物館を会場に展示し、以後、作品をソ連文化省博物館局へ寄贈した。

最後に一九八八年度のソ連の招待事業として、九月エジノサハリンスクで開催される全シベリア博物館会議に北海道からの代表団（北海道の歴史の研究者、博物館展示の専門家）の参加が期待されている。当協会は十名程度の専門家の派遣を予定している。

（日ソ極東・北海道博物館交流協会理事） 紺谷 憲夫

つきに一九八八年度の交流について、ソ連側に提案している事項についてふれておきたい。

展示会の交換事業は、日本側からは「アイヌ民族博物館資料展」を極東地域へ派遣すること。ソ連側から招致する展示会として「チェホフ文学展」を希望する（当初はソ連文化省の意向として「トルストイ文学展」の提供が示唆されたが諸般の事情により変更された）。博物館資料の交換事業としては、道内の博物館より考古学資料、民族学資料を相互に対等、等量の交換を行うこととする。その他情報資料の交換を行う。

最後に一九八八年度のソ連の招待事業として、九月エジノサハリンスクで開催される全シベリア博物館会議に北海道からの代表団（北海道の歴史の研究者、博物館展示の専門家）の参加が期待されている。当協会は十名程度の専門家の派遣を予定している。

（日ソ極東・北海道博物館交流協会理事） 紺谷 憲夫

（日ソ極東・北海道博物館交流協会理事） 紺谷 憲夫

特集 学校博物館

昭和62年度の北海道博物館大会のテーマは「博物館と学校教育の提携をどうすすめるか」でした。

そこで、今回は最近増加しつつある学校博物館・資料館の中から札幌市内の小中学校の事例をとりあげて現状を紹介するとともに、学校博物館設立協力の経験をもつ中村齋理事（開拓記念館学芸部長）にくつつかの問題点について述べたいいただきました。

学校博物館について

札幌市内の幾つかの学校博物館をお手伝いした経験から考えつくことの二三を述べて見たい。

学校博物館を作る動機は、創立百周年記念というようなことが多い。学校の歴史を改めて辿って行くうちに校下の地域史に触れ、開拓当初の状況に思いを馳せることになる。

記念行事を主催するのが、地域の人々であることが、歴史を身近なものにし易いので

あろう。

資料を集める段階では父母

がその任にあたり、一応の点数が集められるが、さて、部屋が確保できて展示をしようということになると、何を、

どう並べるかがわからなくなる。父母も先生方も、博物館を作った経験がないのだから当然のことだが、どう並べる

かは博物館学の分野なので、学芸員に聞いて貰うのが手取り早い。私達も、それに充分対応する用意があり、機能も持っている。

勿論、設立に携わる方々が博物館の働きや博物館教育について熟知しているのが最も望ましい事ではある。

ここで、先生方の歴史に関する資質について言及しておかなければならない。

地域の父母の心情を整理し客観性を持たせた上で展示を行なうのは、やはり先生方を中心とする作業にならうが、

その先生方が、意外に、地域史や北海道史に関する知識に乏しいことに気付く。これは、先生方が受けた歴

史教育が、日本史や世界史中心だったから止むを得ないことでもある。

ただ、現在四十才歳前の先生方は、戦後教育の中で郷土教育を受けて来た筈だから、

若し、学習内容が定着していなかったとすれば、当時の郷土学習そのものが悪かったことになる。

「どう並べるか」は学芸員の仕事としても、「何を」は先生方が主体となるべき範疇である。

「何を」は教育内容から出て来るものだからである。

そのためには、先生方は当然、地域史を把握し、その中から何を教えるかを抽出して置かなければならない。

一応、各市町村には小学生用の郷土学習テキストがあり通常、そのテキストに準拠して資料を集め展示すれば良いのだが、テキストの記述に誤りが多いので、誤りをチェックするためにも正確な知識が必要になって来る。

「何を」に関連して、学校博物館をどう利用するつもり

かについても、予め考慮しなければならぬ。

本来、博物館の資料は社会科だけに使われるべきものでなく、全教科の中で使用されるものである。

国語教材で宮沢賢治の「オツベルと象」を教える時、足踏脱穀機があれば良いし、民話の教材では、石臼、機械機、

みの筈などが集められていると良い。

図画などで、古い道具を見つめて画かせると、形や色に對する認識のほかに、使われた物の美を気付かせることも役立つだろう。

音楽科では、琴や尺八を使い、古い蓄音機でSPのレコードコンサートなどどうだろう。パデレフスキーのショパンはSPでなければ聞けないのだから。

以上でわかるように、全教科の教材について点検をし、必要資料を揃えておかなければならない。

「石刃鏃」「胴壺」「ろせ」と聞いて、どんな物がわかるだろうか。火鉢が火鉢と

して機能する様にセットできるだろうか。

物とその機能について知っている若い先生は少なくなっているに違いない。

学校博物館はもつともっとたくさん作られなければならない。両親や先生方が文化財を大切に扱うのを見た子ども達は、伝統文化を大切に市民に育つだろう。

それにしても、教育大学等で博物館学を必修にしては貰えないだろうか。（中村 齋）

博物館・資料室紹介

元町北小学校郷土資料室（北区北31条東14丁目）

昭和51年10月、開校五周年記念事業として開設。地域開拓の功労者である大友亀太郎に関する文書・記録が充実しているのが特色で、職員の調査・研究の成果が生かされている。大友資料以外では、郷土史料、学校資料、農業・生活用具（特にわら製品がよい）日本史学習資料（土器・石器等のレプリカ）がある。展示室面積94㎡、展示資料約1000

点、年間利用者約五〇〇人
 (三・四年生郷土学習、近隣
 小学校郷土学習、社会科学教
 育研究グループなど)。

藻岩北小学校郷土博物館(南
 区川沿2条3丁目)

昭和52年2月、地域の人び
 とが中心となって結成された
 学校郷土博物館建設協賛会に
 よって開設され、その後も教
 職員・PTA・地域有志等に
 よって構成される同館運営委
 員会によって運営されている
 のが特色。展示室には藻岩山

南山麓・旧八垂別地区の歴史、
 明治〜昭和期の生産・生活用
 具、学校の歴史などのコーナ
 ーがあり、大変充実している。
 展示室のほかに収蔵室もあり
 ここは郷土体験室としても活
 用されている。また、開館記
 念日を「郷土の日」として、
 全校生徒が古老の話を聞いた
 り、昔の遊びを行ったりし
 ているのも注目される。出版
 物は案内パンフレット・「郷
 土だより」・「資料一覧表」
 など。展示室64㎡、収蔵室64
 ㎡、収蔵資料三、二〇〇点
 (展示資料約一、五〇〇点)、

年間利用者約七〇〇人(生徒
 父兄・地域住民)。

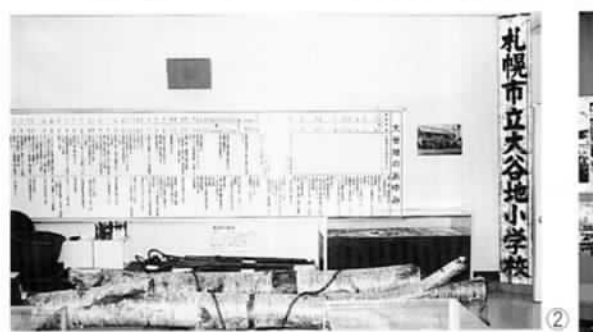
定山溪郷土博物館(南区定山
 溪温泉東4丁目小学校記念館内)

昭和53年2月、小学校開校
 70周年記念事業として、学校
 郷土博物館開設。同57年5月、
 学校記念館に移転して改称。
 本館も教職員・PTA・地元
 住民で構成する運営委員会が
 運営。展示室には私たちの郷
 土、定山溪の自然、定山溪の
 はじまり、生活のうつりかわ
 り、産業のうつりかわり、学
 校の歴史のコーナーがあり、

定山溪鉄道・定山溪温泉、豊
 羽鉾山などの資料に特色があ
 る。開校記念日には全校生徒
 が「ふるさと学習」を行なう。
 出版物は案内パンフレットの
 面積一四四㎡、収蔵資料約
 一、〇〇〇点、年間利用者約
 三〇〇人(生徒の郷土学習、
 地元住民、ホテルの新人研修
 など)。
 大谷地小学校郷土資料室(白
 石区本通18丁目南1・1)
 昭和60年11月、開校90周年
 記念事業として開設。研究部

郷土資料室担当職員二名が運
 営にあたっている。郷土史年
 表、農具、運搬具、生活用具
 など約一〇〇〇点が展示され、
 約一〇〇〇点が収蔵室に置かれ
 ている。展示室64㎡、収蔵室
 64㎡、年間利用者約七〇〇人
 (生徒と父兄)。

以上が今回取材した館、室
 であるが、市内には、このほ
 か昭和62年開設の丘珠小学
 校郷土資料室、昭和54年開校
 の手稲西小学校むかしのへや
 などがある。



《写真説明》

- ① 元町北小学校郷土資料室
- ② 大谷地小学校郷土資料室
- ③ 藻岩北小学校郷土博物館
- ④ 定山溪郷土博物館

館 園 紹 介

開拓使麦酒記念館
サッポロビール博物館

明治九年九月二十三日、現在の札幌市中央区北二条東四丁目（現サッポロビール札幌工場第一製造所）の地において、開拓使麦酒醸造所の開業式が挙行されました。この開拓使麦酒醸造所が、のち、民間に払い下げられ、幾度遷を経て、現在のサッポロビール株式会社が発展したのです。

一方、明治二三年、当時の札幌郡苗穂村帝室御料地の一角に、総煉瓦造四階建、間口八四米という堂々たる西洋建築が建造されました。これは、札幌製糖会社のビート糖製造



工場として建てられたもので、のち、開拓使麦酒醸造所を引継いだ札幌麦酒会社（サッポロビール前身）が買収して、麦芽工場に改修し、明治三八年から昭和四〇年迄、半世紀余にわたり麦芽を作りつづけてきました。これが、現在、サッポロビール（札幌工場第二製造所構内）にある開拓使麦酒記念館なのです。

昭和四一年、内部の一部を改装して、史料館とサッポロビール園を設けましたが、建物が老朽化してきたので、昭和六一年、サッポロビール創製一〇年を記念して永久保存工事を行うことになり、併せて、従来の史料館を拡張・



大改装してビール博物館に作りあげました（昭和六二年七月三日開館）。

館内は、サッポロビールが永年保存してきた実物資料をはじめ、さまざまな模型や、最新の展示・映像の技術をふんだんに駆使して、ビールの歴史・科学・自然が楽しくご理解いただけるように構成されています。

ご来館のお客様は、まず、工場内のビール製造工程をご覧いただき、引続き、ビール博物館へとご案内することになります。

博物館の導入部「ビールの泡のトンネル・ポスターのトンネル・麦とホップのトンネル」を抜けると、そこは、博物館の三階です。三階はビールの歴史の物語。酵母純粋培養・冷凍機・王冠・自動製壘機などが、ビールづくりを近代化する装置工業に変えた過程が良く判ります。開拓使麦酒醸造所劇場では、ドイツで醸造技術を学び、開拓使麦酒醸造所の初代技師として、日本のビール醸造技術の基礎をき



ずいた中川清兵衛他の精巧なロケットが、昔のビールの手づくりの様子を、いきいきと再現してくれまます。

二階では、現代のビール工業を支える科学技術の世界をご覧いただきます。麦、ホップ・酵母などの原料の話、セラミックフィルターの秘密、品質管理の話など、興味深い話題を、特殊な映像技術も使って判りやすく紹介します。最後に、落着いた雰囲気の中で、お待ちホールで、出来たてのサッポロビールや清涼飲料水をご試飲いただき、全コースを終ることにあります。

児童・生徒の皆様は学んでいただく場として、また、ご家族・お友達同士で楽しんでいただく博物館として、是非ご利用いただきたいと思えます。

《サッポロビール博物館案内》
所在地・札幌市東区北七条東九丁目サッポロビール（札幌）工場第二製造所内
電話番号・〇一一七三一一四三六八

開館時間・夏季／六・七・八月は八時三〇分から一六時（入館は、一六時四〇分迄）
冬季／一〜五月、九〜十二月は、九時から一七時（入館は一五時四〇分迄）

開館日・年中無休（但し、二月二九日から翌年一月五日迄は休館）
入館料・無料
交通案内・市営バス／札幌駅北口（東六・三番）・バスセンター（東三番）より乗車、北八東七で下車徒歩一分
その他・要予約
（サッポロビール博物館）
館長 鈴木省二

館 園 紹 介

北方歴史美術館

北方歴史美術館は、昭和六十二年十月に設立オープンした。明治時代における西洋建築の再現を偲ばせるユニークな建物内には、喫茶・レストラン「明治館」も併設され、アンティークな雰囲気です統一された館内は、明治・大正期のロマンの香りを漂わせ、新しい北見地方の名所として話題を集めている。



蝦夷風俗画の観賞

いる。

当館はその創立者である妻沼浩所蔵の「妻沼コレクション」の内より蝦夷風俗画・北海道関係の版画・アイヌ民俗資料・北方古地図・明治開拓資料、他に江戸時代の工芸美術品として甲冑・武器・風俗合戦屏風・文明開化版画・六古窯の古陶磁器等約五百点の文化遺産が所せましと展示されている。

展示品のうち特に注目を集めているものでは、松前藩二代藩主松前資広の五男である蠣崎波響五十二歳の作である「名鷹図」である。「蠣崎波響展」・「遺墨集」にもカラーで収められている名作である。江戸時代京都画壇の巨峰であった円山応挙の弟子としての波響の描写力が如何に素晴らしいか理解される。

また松前藩御抱絵師早坂文嶺作「酒宴の図」・「武者十二人図」・「兎の舞」・「熊送り」等のほか蝦夷風俗画家として不巧の名作をのこした平沢屏山の「蝦夷神祭図」・「マレップにて鮭を捕る図」

「昆布取り図」などがある。具研究保存会から重要文化資料と認定された江戸時代初期

また安政三年蝦夷地に痘瘡が大流行し、幕府から種痘医が派遣されてアイヌの人達に種痘を行ったが、この日本医学史上銘記すべき種痘の状況を描いた「蝦夷人種痘え図」も展示している。北方関係の古地図では、天明五年、林子平の「三國通覽図説付図蝦夷国全図」、北方図の大作とも云ふべき松浦武四郎、安政六年の作「東西蝦夷山川地理取調図」、「北海道郡図」、古今未曾有の精図であるところが、国の学者を驚嘆させ、わが国のカラフト地図作成に大きな影響を与えたフランスの探検家ラールベルズの「探検結果図」(一七三七年)、ロシアの海軍少佐ゴロウニンの「千島列島地図」(一八一一年)を展示している。

アイヌ民俗資料としては、山丹交易によって得た山丹服(蝦夷錦)を始め山丹布・魚皮服・厚司・ポクト・宝刀・マキリ・行器等多数展示又は所蔵している。甲冑武器関係では、社団法人日本甲冑武

料と認定された江戸時代初期作「黒漆塗本小札紺系威二枚桐具足」他五点が他の武器とともに陳列されている。桃山時代の武家の弓術を描いた「犬追物の図」の屏風は数少ない名作である。日本の古陶磁器を一堂に集めた展示場には、江戸時代末期にヨーロッパに輸出された代表的な大壺が並べられ、又、装飾性の強い伊万里焼の染綿の沈香壺等の名品から庶民の生活の中に普及した雑器に至るまで多数の資料が展示されている。又、幻のやきものといわれている「蝦夷試製」も展示され、蝦夷風俗の構図のものが特に注目されている。

以上、当館の主な資料を紹介した。この美術館を通じて北海道の歴史を学び、祖先の偉業をしのぶことは大変意義があることと思われる。なお、終りに蝦夷風俗画史、その他については未だ多くの解明されないものがある。大方の御教示を賜われれば幸いです。

《北方歴史美術館案内》

所在地・北見市大町五十番地
電話番号・〇一五七(三三)五九六六および(三二)五五五二

開館時間・十時～十七時
休館日・年中無休(但し臨時休館あり)

常設展示観覧料・一般 三五〇円、小中学生 二〇〇円

交通案内・JR北見駅下車、市バス八分、徒歩十五分

(北方歴史美術館 代表者 妻沼 浩)

◆日本博物館協会の大会・会議日程について

第36回全国博物館大会は昭和63年11月10～11日に栃木県宇都宮市・栃木会館、役員会は6月23～24日に東京で開催されます。大会の内容については次号でお知らせいたします。

なお、研修会のうち、庶務部門については釧路市で開催の子定ですが、時期は未定です。

館園動向

◆三笠鉄道記念館オープン

昭和62年9月、三笠市幌内町2丁目、三笠鉄道村の中核施設として開館しました。北海道最初の鉄道である「幌内鉄道」を中心とする北海道の鉄道史と鉄道の科学をテーマとした展示が見られます。RC一部鉄骨造二階建、建築面積一、五四一㎡、延床面積二、四二八㎡、入館料一般五〇〇円、小・中学生二〇〇円、開館時間9時～17時、休館日月曜日、電話〇一二六七―三一二二三。

◆熊石町歴史記念館オープン
昭和62年10月、爾志郡熊石町字半に開館しました。各種歴史・民俗資料・レブリカ・ジオラマなどによって熊石の歴史を展示しています。鉄骨造平屋建、建築面積一、〇三五㎡、入館料大人二〇〇円、小中高生一〇〇円、開館時間9～17時、休館日月曜・国民の祝日の翌日・年末・年始、電話〇一三九八―二二二二〇。

◆北方歴史資料館オープン

昭和63年3月5日、函館市末広町23―2に開館し、翌日から一般に公開しています。本館は、国後、択捉両島開発の先駆者であり、近世の日露外交史上の功労者としても知られている箱館の豪商高田屋嘉兵衛に関する諸資料の保存、管理、調査研究、利用等を目的として建立されました。設置・運営は社団法人北方歴史研究協会（理事長高田嘉七氏、嘉兵衛の七代目の子孫）、館長は須藤隆仙氏。展示資料は、これまで一般には公開されなかったものなかつた高田屋関係の貴重な文書・記録類のほか、ロシアの船艦デアアナ号の船長ゴロウニンの子孫から贈られた彼のブロンズ像、わが国の写真術の先駆者横山松三郎に関する資料など数百点。建物はRC二階建、面積三三〇㎡。入館料大人五〇〇円、高校生三〇〇円、小中生二〇〇円。年中無休。解説書「高田屋嘉兵衛」、季刊紙「高田屋研究」などが用意されています。

事務局日誌

◆北方歴史資料館オープン

昭和62年3月5日、函館市末広町23―2に開館し、翌日から一般に公開しています。本館は、国後、択捉両島開発の先駆者であり、近世の日露外交史上の功労者としても知られている箱館の豪商高田屋嘉兵衛に関する諸資料の保存、管理、調査研究、利用等を目的として建立されました。設置・運営は社団法人北方歴史研究協会（理事長高田嘉七氏、嘉兵衛の七代目の子孫）、館長は須藤隆仙氏。展示資料は、これまで一般には公開されなかったものなかつた高田屋関係の貴重な文書・記録類のほか、ロシアの船艦デアアナ号の船長ゴロウニンの子孫から贈られた彼のブロンズ像、わが国の写真術の先駆者横山松三郎に関する資料など数百点。建物はRC二階建、面積三三〇㎡。入館料大人五〇〇円、高校生三〇〇円、小中生二〇〇円。年中無休。解説書「高田屋嘉兵衛」、季刊紙「高田屋研究」などが用意されています。

昭和62年10月、爾志郡熊石町字半に開館しました。各種歴史・民俗資料・レブリカ・ジオラマなどによって熊石の歴史を展示しています。鉄骨造平屋建、建築面積一、〇三五㎡、入館料大人二〇〇円、小中高生一〇〇円、開館時間9～17時、休館日月曜・国民の祝日の翌日・年末・年始、電話〇一三九八―二二二二〇。

12・1 「道博協ニュース」第21号発行

12・8 日博協に「昭和62年開館博物館等施設リスト」および「博物館研究」一月号・支部長原稿発送

12・18 事務局会議開催（役員会について）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

12・22 昭和62年度第3回役員会開催（札幌市青少年科 学館・役員14名・事務局4名出席）

民族文化シンポジウム「開館（道博協共催事業）」
2・23 事務局会議（第4回役員会等について）
3・8～22 北海道フィンランド協会主催、道博協等後援の「早春のフィンランドと北欧、パリ見学ツアー」実施

3・10 昭和63年度北海道博物館大会講演依頼（函館、グロッド・フィリップ氏）
3・11 道教委文化課文化財係長大久保氏来訪。昭和63年度アイヌ文化財専門職員等研修会実施（委託）につき協力依頼あり

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

3・14 松浦武四郎翁没後一〇〇年記念事業協賛会設立総会開催（道博協協賛）

寄贈図書

◆農業博物館だよりNo.42 (62・8) ◆アイヌ民族博物館だよりNo.15 (63・1) ◆室蘭民俗資料館だよりNo.9 (63) ◆神奈川県博物館協会加盟会員職員名簿(62・11) ◆季刊ミュージアム・データNo.3 (62・10) ◆季刊ミュージアム・データNo.4 (63・1) ◆教育ほっかいどうNo.309 (62・9) ◆フィールドガイド根室 根室の景勝と史跡(61) ◆根室市の自然と文化財(62・3) ◆根室市博物館開設準備室紀要(61・3) ◆はまなす国体イメージソング「北から」◆ガイドブック愛知の博物館

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

◆愛知の博物館No.44 (63・2) ◆郷土誌元町北―大友亀太郎をおって―(57・9) ◆藻岩北小学校郷土博物館資料一覧表No.1～4 (52・2～54・11) ◆おおやち―郷土学習資料集―(60・11)

新入会員

◆団体職員 札幌学院大学学芸員課程（江別市文教台11明和学園札幌学院大学）

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。

◆編集後記 昭和62年度は計画通りNo19 / 22号を出すことができました。63年度もどうぞよろしく。